

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)MFL物流センター新築工事	階数	地上6階
建設地	大阪府摂津市鳥飼下、鳥飼西	構造	S造
用途地域	準防火地域	平均居住人員	172 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,085 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,集会所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年12月 予定	評価の実施日	2024年9月2日
敷地面積	8,051 m ²	作成者	倉島
建築面積	5,594 m ²	確認日	2024年9月3日
延床面積	16,159 m ²	確認者	倉島



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100%
②建築物の取組み: 73%
③上記+②以外の: 73%
④上記+: 73%

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境(敷地内): 3
LR1 エネルギー: 3
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア=2.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア=2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア=2.4

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア=3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア=2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア=3.2

3 設計上の配慮事項		その他
総合 倉庫としての用途を満たすともに、従業員が働きやすい環境になるように導線計画や倉庫内の柱スパンの検討、天井高さを検討し働きやすい環境にした		
Q1 室内環境 空調気、風の通り、換気、遮音性、照明など快適な労働環境になるように室内環境を整えた。	Q2 サービス性能 働きやすい環境になるよう機能性 広さや収納、快適性 天井高さや執務スペースを配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 室外環境(敷地内)の配慮として景観の配慮、地域性への配慮した。
LR1 エネルギー 建物外皮の熱負荷制御、設備システムの高効率化に配慮した。	LR2 資源・マテリアル 節水、材料使用の削減、有害物質を含まない配慮した。	LR3 敷地外環境 大気汚染、光害抑制、交通負荷の抑制等の配慮をした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称	(仮称)MFL物流センター新築工事						
建設地	大阪府摂津市鳥飼下、鳥飼西						
用途/区分	工場 事務所 集会所						
【評価結果】	CASBEE 総合評価					B+	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					2	
③	断熱性能					4	
		建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	評価対象外		評価対象外	
④	エネルギー消費性能					5	
		建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	評価対象外		評価対象外	
		非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分			5		
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						報告しない	
【評価項目】							
項目	評価内容					スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮					4.0	4
② みどり・ヒートアイランド対策							
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出					1.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環境 2.2 温熱環境悪化の改善					2.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制					3.7	4
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化					5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用					3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。					報告する 報告しない	報告しない
その他							
先進的技術の導入	技術の名称			考慮事項			
特に配慮した事項							